

映画『いのちの岐路に立つ核を抱きしめたニッポン国』がつなぐ

反核平和への思い

敗戦
特集

早野慎吾

今年7月に国連で採択された核兵器禁止条約には「ヒバクシヤ」との文言が入れられた。ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマを経験した日本。その歴史を描いたドキュメンタリー映画『いのちの岐路に立つ核を抱きしめたニッポン国』が完成し、原水爆禁止世界大会に合わせ広島で上映された。世界大会の様子とともにレポートする。

原水爆禁止世界大会に参加するために乗った広島行きの新幹線で、偶然、墨田折鶴会の湊武さんと乗り合わせた。湊さんは、3歳の時に広島で爆心地から約2・2キロメートルの地点で被爆した。約4時間、湊さんから被爆者の思いを聞くことができ、退屈なはずの乗車時間が、貴重な時間に変わった。

7月7日、国連で核兵器禁止条約が採択され、被爆者の念願の一つが実を結んだ。まさに歴史的快

挙で、条約前文に「ヒバクシヤ」との文言が書かれていた意義も大きい。この条約採択により、今年7月の原水爆禁止世界大会は特別なものとなった。

原水爆禁止日本協議会(原水協)主催の世界大会が、8月3日〜6日まで広島で開催された。「核兵器禁止条約を力に 核兵器のない平和で公正な世界の実現を」を大会



8月5日、原水協の国際会議、開会総会。

原水爆禁止世界大会

テーマに、国際会議では各国の参加者から多くの発言がなされ、ヒロシマデー集会には約20000人の参加者が集まった。

筆者の取材に、担当常任理事の前川史郎さんは「今回は、核兵器禁止条約が採択された直後の大会として意義が大きい。核廃絶の大きな一歩となった」と話した。参加者の大平由美子さん(新日本婦人の会)は「条約採択で、広島市民にも光が見えた。残念なのは日本が条約交渉会議に不参加だったこと」と答えた。

一方、原水爆禁止日本国民会議(原水禁)主催の世界大会・広島



8月4日、原水禁の開会総会。

大会は8月4日から6日に開かれ「核も戦争もない平和な21世紀に!」くり返す原発震災! めざそう脱原発社会!」をメイン・スローガンに、「子どもたちに核のない未来を!」など九つのサブ・スローガンを掲げ、核兵器禁止条約や脱原発などについて議論がなされた。

開会総会に参加した近藤一郎さん(広島県)は「例年より空席が多かったことが気にかかった一方、若い参加者が多く、核廃絶への関心が世代を超えて引き継がれていることを強く感じた」と話した。確かに、多くの若者が大会Tシャツを着て総会に参加する姿は印象的だった。

どちらの世界大会も「平和」「核廃絶」を強く願う気持ちは同じだ。イデオロギーを越えて参加してほしい。

過去・現在・未来まで続く

原水禁世界大会の「ひろば・フィールドワーク」のセクションでは矢間秀次郎さん製作・脚本の反原発映画『シロウオ』原発立地を断念させた町」も上映され、会場は満員となった。

この『シロウオ』に続き矢間さ

